

原価計算システムの構築（標準原価計算制度の導入）

目的

- 1)工場収益の改善に役立つ原価情報の作成
- 2)原価計算業務の効率化（原価計算担当の活人、月次決算日程短縮）

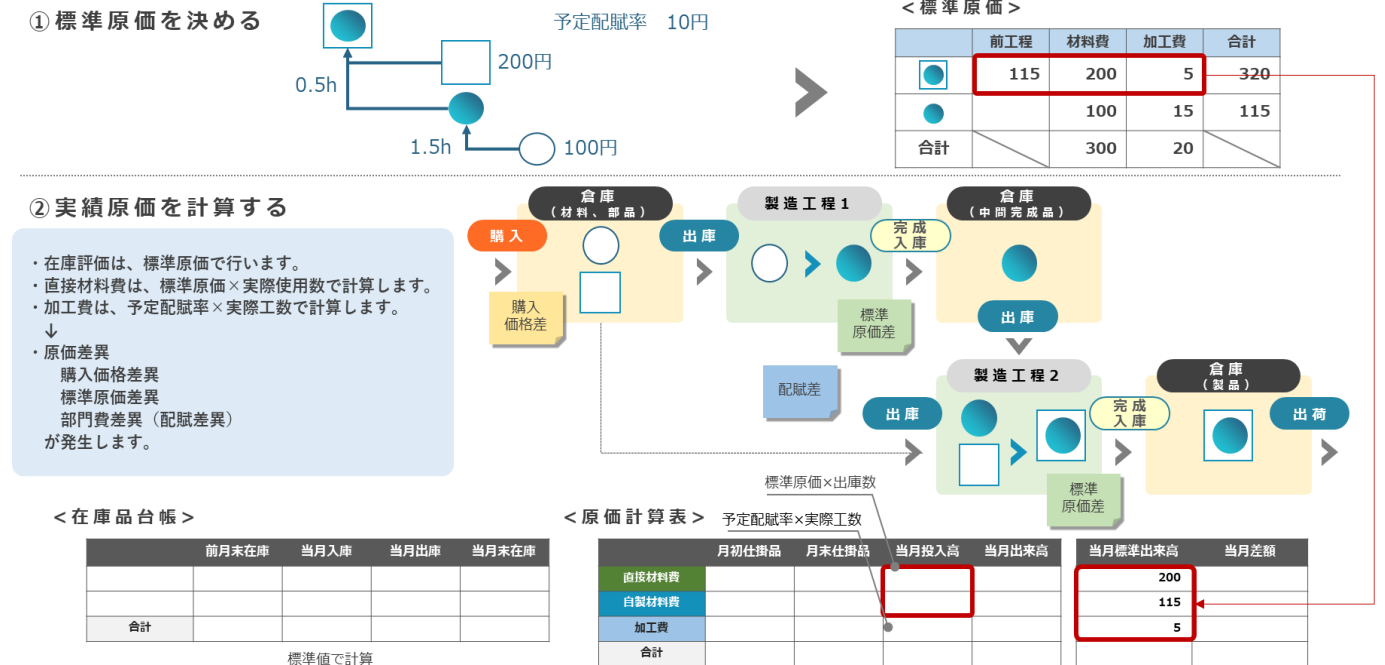
着眼点

- 1)材料の購入価格
材料の購入時に各材料の標準単価と実際購入額を比較
差額を品目別、仕入先別に分析、評価
- 2)製造原価（実績原価）
製造原価（実績原価）を算出するとともに
標準原価との比較を行い、
材料費差異：仕損じなど
加工費差異：能率
の実態を把握し、原価低減活動に活用
- 3)製品別損益
製品別の売上、損益を算出し、売価の適正化などに活用
売上、損益を製品グループ別に集計し、トレンドを見る
- 4)在庫回転率
売上高（売上原価）÷在庫で在庫回転率を算出
回転率の向上によるキャッシュフロー改善を目指す
- 5)損益分岐点分析
損益分岐点売上高（限界利益、固定費）の実態を把握
限界利益の向上、固定費管理による収益向上を図る

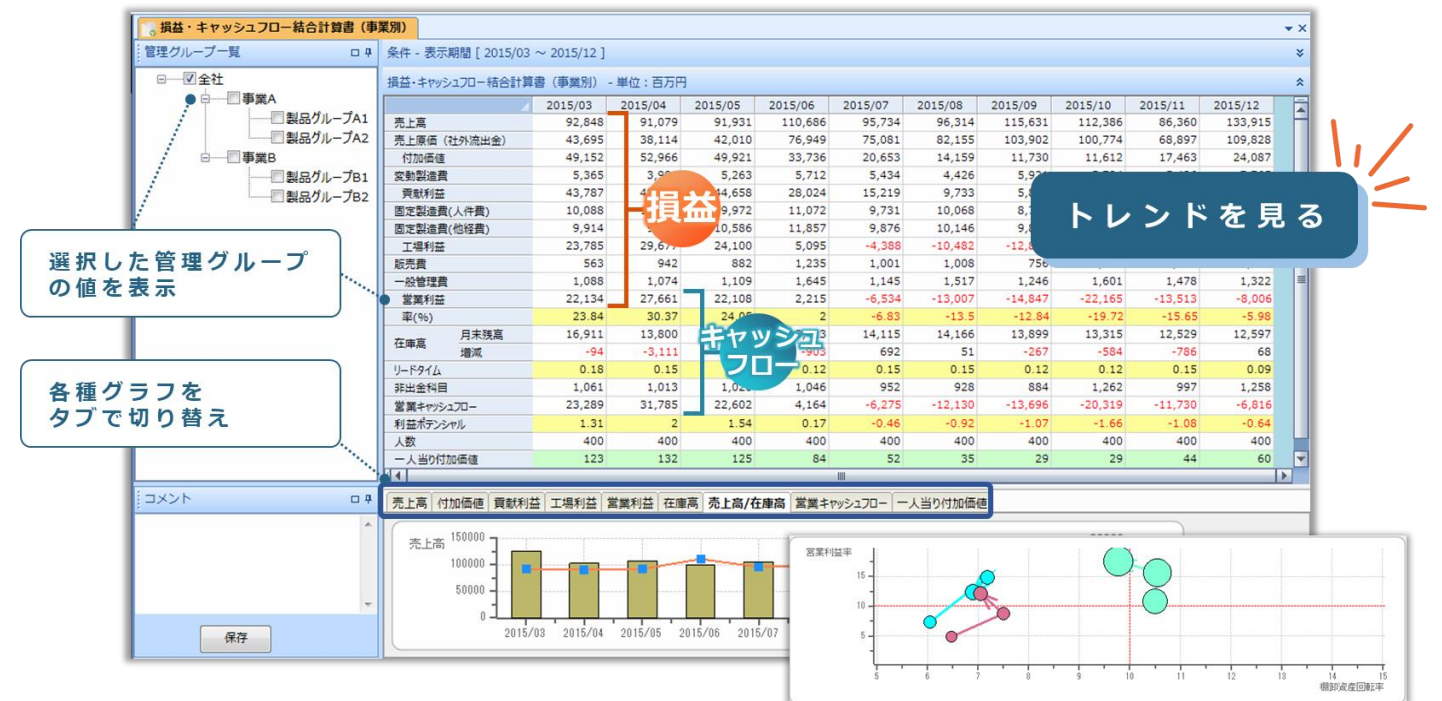
標準原価計算を適用するメリット

異常値が発生した場合、原価差額でその異常値の発生場所（品目、組）が特定できます。
異常値発生の原因の調査、対策の検討がし易くなります。

計算の概要



画面サンプル：損益キャッシュフロー結合計算書



【本件に関するお問い合わせは下記まで】

ソートウェア株式会社 Tel : 052-439-6758 Fax : 052-439-6759
〒464-0075 名古屋市千種区内山三丁目18番10号 千種ステーションビル802号室